

# Standard precautions case report

標準予防策を考え、遵守率100%を目指す

標準予防策遵守の意識をいかに高く維持していくかはどの施設にとっても永遠のテーマなのではないでしょうか？

遵守率 100% を目指しみなさんが一緒に高めあうきっかけとなることを期待し各施設での工夫や成功事例を紹介いたします。

## 標準予防策遵守の組織的推進

～環境整備と心理的安全性を軸とした多面的アプローチ～

🗨️ インタビュー、施設紹介

東京医科大学病院 感染制御部

部長、教授・専従ICT

看護師長・専従ICT・感染管理認定看護師

看護師・専従ICT・感染管理認定看護師

看護師・専従ICT

看護師・専従ICT

渡邊 秀裕 先生

奥川 麻美 先生

山口 大 先生

伊藤 幸子 先生

堀之内 莉菜 先生



写真左から堀之内先生、伊藤先生、渡邊先生、山口先生、奥川先生

1931年開設の都市型大学病院。2019年の新病院移転で高度急性期医療体制を強化した特定機能病院・地域がん診療連携拠点病院です。「人間愛に基づいた患者さんとともに歩む良質な医療」の理念のもと、わかりやすい医療と患者満足を目指しています。感染制御部は、感染症学会専門医6名（うち専任2名）のほか10数名の医師、専従看護師4名、薬剤師2名（うち専従1名）、臨床検査技師2名で構成されています。感染制御部の活動と感染症診療が一体化しており、多職種が同室で業務を行っているため、職種間で円滑なコミュニケーションが図れる環境にあります。

### —— 標準予防策遵守に対する現状をどのように捉えていますか？

当院における標準予防策の遵守状況は職種によって差が認められ、特に医師への啓発が課題となっています。また、遵守への意識があっても環境が整備されていないために実施困難なケースも見受けられます。こうした現状を踏まえ、組織として標準予防策の遵守を推進するために、2つのアプローチを取り入れています。

ひとつは「環境整備」です。各部署に適した個人防護具（PPE）の整備や設置場所への配慮など、細やかで多様な環境整備を行っています。

次に「心理的安全性」です。スタッフ同士が気軽に「PPEを使用することで安全を確保できる」と声をかけ合うことで、感染対策の意識が組織全体に浸透していくと考えています。10年ほど前は十分に取り組めていませんでしたが、当時と比較して確実に定着しています。



予防策の「ガイドブック」を作成・配布しました。ガイドブックは写真を多用し、一目で理解できるよう工夫しています。標準予防策の「あるべき姿」を明示することで、事前に「答え」を提示する形としました。さらに、ICTラウンドのスケジュールを事前に周知し、ガイドブックに基づく自己点検を促すことで、スタッフの標準予防策遵守への動機づけを図りました。

### アイガードの適切な装着と定着への工夫

当院では、眼の防護具はディスプレイタイプとゴーグルタイプを使い分けています。適切な選択を促すため、気管吸引など短時間処置にはディスプレイタイプ、内視鏡検査など長時間処置にはゴーグルタイプを推奨する写真入りポスターを作成し、病棟・検査部門に配布しました。

ディスプレイタイプについては、従来のシールド型から「3M™ マスクにくっつくアイガード」へ変更しました。シールド型では、フレームを「もったいない」と拭いて再使用するケースが多く、不十分な清拭による感染リスクや設置場所の課題がありました。3M™ マスクにくっつくアイガードは着脱が簡単で、他のPPEと一緒にラックに設置できるため、着け忘れの防止にも効果的です。病室では入り口横の壁にPPEラックとともに設置しており、吸引が必要な患者さんへの処置にはベッドサイドに配置する場合があります。

3M™ マスクにくっつくアイガードの導入後に行ったリンクナースによる調査では、約半数がアイガードをマスクの下寄りの位置に装着し、適切に眼の保護ができていないことが判明しました。リンクナースによる講習では正しく装着できるものの、多忙な現場では間違った位置に装着する事例が続きました。

この課題を解決するため、Solventum社と協力して正しい装着法をサポートできるような「ミラー付きポスター」を開発しました。鏡の持ち込みが困難な処置室にも設置でき、当院ではPPEラックの横に設置しています(写真1)。設置の際は、身長が異なるスタッフでも見やすい高さに調整することにこだわりました。現在は、PPEラックから3M™ マスクにくっつくアイガードを取り出し、ミラーで確認

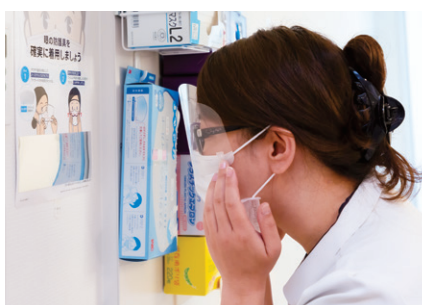


写真1 ミラー付きポスターを活用したアイガード着用の様子

しながら装着する流れが習慣化され、スタッフからは「これがないと困る」と言われるほど好評を得ています。

リンクナースによる眼の防護具の適切な装着に関する調査は年2回継続実施しており、一連の取り組みの効果は、眼の防護具の遵守率60%という数値に表れてきています。

### 医師への啓発活動ー針刺し事故ゼロキャンペーン

医師は手袋の着用率が高いものの眼の保護を忘れる傾向があり、針刺し事故や血液・体液粘膜曝露のインシデントも発生していました。これを受け、医師に直接訴求する「針刺し事故ゼロキャンペーン」のポップアップを作成しました(図2)。



図2 針刺し事故ゼロキャンペーンのポップアップ画面

ポップアップには3M™ マスクにくっつくアイガードを装着した医師がモデルとして登場し、模擬血液が付着した3M™ マスクにくっつくアイガードとともに「付けてよかった」というメッセージを表示します。電子カルテを開くと画面に現れる仕組みで、年2回実施しています。実施時期は、職業感染制御研究会が制定した「針刺し予防の日」(8月30日)と、1を針に見立てた1月30日から、それぞれ1週間続きます。

このキャンペーン開始後、針刺し事故はゼロ、血液・体液粘膜曝露事例も減少しました。しかしながら、不適切な装着により、眼と3M™ マスクにくっつくアイガードの間から血液が侵入した事例もあり、正しい装着法の教育を継続しています。

### 多職種協働による現場主導の環境整備

現場での実行性を高めるため、医師、看護師、理学療法士、ICTによる多職種ラウンドを実施しています。各診療科でPPEの種類、サイズ、設置場所を確認し、現場の意見を収集しています。当院では基本的にS・Mサイズの手袋を用意していましたが、ラウンドでは医師から「Mサイズでは小さく、破れてしまう」との意見があり、Lサイズの手袋も適宜配置することに変更しました。

感染対策は感染制御部からの一方通行になりやすい傾向があります。現場の意見を積極的に取り入れ、必要に応じて柔軟に変更していく姿勢と、多職種による協働の重要性を実感しています。

## —— 標準予防策の遵守に課題を感じているご施設に向けて一言アドバイスをお願いします

組織として標準予防策を推進するには、「環境整備」と「心理的安全性」の2つのアプローチが必要と考えています。環境整備については、これまでもさまざまな対策を講じ、一定の効果を得ています。しかし、「心理的安全性」については、以前と比較して改善されたものの、十分とは言えません。

心理的安全性をさらにスタッフ間に浸透させるため、2024年から半年に1回「スピークアップキャンペーン」を実施しています。医療スタッフにアンケートを行い、声をかけて良かったことや嫌な体験など、率直に記載してもらいます。

例えば、「接触感染予防策が必要な病室でPPEを装着していないスタッフを見かけたので装着を助言したところ、『うるさいな』と返された」という記述がありました。このような場合、該当するスタッフに対してこうした声があったことをポジティブ面を強調して伝えるとともに、声を上げたスタッフにもその結果をフィードバックしています。スピークアップキャンペーンを継続することで、声をかけやすい組織風土の醸成を目指しています。また、全職員を対象とした研修会でもスピークアップの重要性を動画で紹介しています。

スピークアップキャンペーンは感染制御部以外への発信ですが、それ以前に重要なのは、部内で意見や考えを自由に表明できることです。さまざまな取り組みのアイデアを、ダメと言われずにチャレンジさせてもらえる心理的安全性を確保し、まず自分たちの職場を活気ある環境にすることが活動の基本だと考えています。

さらに、患者さんにも参加いただく取り組みを開始しました。医療者の手指衛生状況を患者さんに評価していただくアンケートと、手指衛生の方法を記載したチラシを作成し、入院時のパンフレットと一緒に配布しています。また、希望する患者さんを対象に、看護師が正しい手指衛生の方法を指導する活動も開始しており、患者さんからは大変好評をいただいています。



### 目の防護具でお困りのことは ありませんか？

かさばって設置場所に困る

必要な場面で手元にない

視野が曇って処置の邪魔になる

着脱が煩わしい

熱がこもって不快

### 3M™ マスクにくっつくアイガード

必要な場面でマスクにパッと装着

曇り止め加工でクリアな視界

快適なつけ心地

単回使用で清潔に管理

製品詳細はこちら →  <https://go.solventum.com/eaCR2>

2025年7月発行

Solventumおよびそのロゴ、その製品名等に使用される商標はSolventum及びその関連会社の商標です。3Mおよびそのロゴは3Mおよびその関連会社の商標です。その他の商標はそれぞれの権利者の商標です。

 solventum

ソルベンタム合同会社  
メディカルサージカル事業部

<https://www.solventum.com/ja-jp/home/>

Please Recycle. Printed in Japan.  
© Solventum 2025. All Rights Reserved.  
HPM-1238-A

スリーエムヘルスケア ジャパン合同会社はソルベンタム合同会社に社名変更しました。

カスタマーコールセンター  
製品のお問い合わせはナビダイヤルで

 **0570-000-470**

9:00～17:00/月～金(土日祝年末年始は除く)